

研修9 音声指導について②

○研修のねらい

「研修9」では、中学年と高学年の音声指導の違いや領域ごとの音声指導のポイントについて、実際の指導場面を想定しながら発話すること等を通して理解を深めます。また、指導者として話す力を向上させるために効果的な方法についても考えます。

中学年と高学年の音声指導の違い

外国語活動（第3・4学年）	外国語科（第5・6学年）
<p>体験的に身に付ける</p> <ul style="list-style-type: none"> 日本語と外国語を比較することで、日本語と外国語との音声の違い等に気付かせること。 外国語を用いたコミュニケーションを通して、日本語の使用だけでは気付くことが難しい日本語の音声の特徴や言葉の仕組みへの気付きを促すこと。 	<p>「知識・技能」を習得する</p> <ul style="list-style-type: none"> 日本語との音声の違いにとどまらず、文字、語彙、表現、文構造、言語の働き等についても日本語との違いに気付くこと。 気付きで終わるのではなく、それらが外国語でコミュニケーションを図る際に活用される、生きて働く知識として理解されること。

領域ごとの音声指導のポイント

音声指導において、実際に英語を用いた活動を通して、言語材料（ア 音声、イ 文字及び符号、ウ 語、連語及び慣用表現、エ 文及び文構造）のうち、五つの領域別（聞くこと、読むこと、話すこと [やり取り]、話すこと [発表]、書くこと）の目標を達成するのにふさわしいものについて理解することが大切です。そして、言語材料と言語活動を効果的に関連付け、実際のコミュニケーションにおいて活用できる技術を身に付けることができるように指導します。

音声指導は、五つの領域を「知識及び技能」として個別に指導するのではなく、常にそれぞれの言語活動と組み合わせて指導します。

【領域ごとの音声指導事項】

領域 学年	聞くこと	読むこと	話すこと [やり取り] 話すこと [発表]	書くこと
第3・4学年	<ul style="list-style-type: none"> 日本語と外国語の音声の違いに気付かせる。 		<ul style="list-style-type: none"> 外国語の音声や基本的な表現に慣れ親しませる。 ※言葉の面白さや豊かさに気付かせる。 	

第5・6学年	<ul style="list-style-type: none"> ・語と語を連結させる音の変化に慣れさせるようにする。 ・日本語と異なる英語のリズムを理解させる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・活字体で書かれた文字を識別し、その読み方を発音することができるようにさせる。 ※ a,e,i,o,uなどの母音字について、日本語のローマ字表記の読み方と英語の文字の名称の読み方が異なることに留意し、指導する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・英語のリズムを大切にしながら発音させる。 ・強勢があることによって英語特有のリズムが生まれることに気付かせる。 ・基本的なイントネーションに気付き、話す場面で用いられるように繰り返し指導する。 ・表現に繰り返し触れさせることによって、区切りに関する気付きを促し、文を区切りながら話すことができるようにさせる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・文字の読み方の発音を聞いて、活字体を書かせる。 ※音声で十分に英語表現に慣れ親しんでから書くことの指導を行うことが重要である。
--------	---	--	--	---

音声指導及び評価・見取り方

音声指導は、児童が外国語の表現に繰り返し触れたり、活用したりする中で行うことが大切です。その際、英語の音声の特徴に気付かせ、必要に応じて発声練習等を通して指導するようにします（下記参照）。また、評価は、授業観察、自己評価、Hi, friends!、We Can!の記入結果等から見取ります。評価をすることで、児童の学習状況を把握し、自身の授業改善を図ります。

【外国語科の音声指導取扱い事項と内容】

取扱い事項	内容
ア 現代の標準的な発音	<ul style="list-style-type: none"> ・母音や子音があること、日本語とは異なり、likeのように発音が子音で終わることがあること等、日本語と英語の音声の特徴や違いに気付かせること。 ・母音字について、日本語のローマ字表記の読み方と英語の文字の名称の読み方が異なることに気付かせること。
イ 語と語の連結による音の変化	<ul style="list-style-type: none"> ・I have a pen. (haveとaが連結)のように、英語を話すときは、一語一語切り離して発音せず、複数の語を連続して発音することが多い。英語のリズムを大切にしながら発音させること。
ウ 語や句、文における基本的な強勢	<ul style="list-style-type: none"> ・音声で十分慣れ親しませることを通して、語、句、文に強勢があることによって、英語特有のリズムが生まれることに気付かせること。 ・文では、重要な情報に強勢が置かれることに気付かせること。
エ 文における基本的なイントネーション	<ul style="list-style-type: none"> ・下降調のイントネーションは平叙文や命令文に見られることが多い。What等で始まる疑問文も原則として下降調のイントネーションが用いられること。上昇調のイントネーションはYesやNoで答える疑問文や言葉を列挙するとき等に見られることに十分慣れ親しませ、基本的なイントネーションに気付き、話す場面で用いられるようにすること。
オ 文における基本的な区切り	<ul style="list-style-type: none"> ・過度に意味のまとまりを意識させながら区切って話す練習を行うのではなく、表現に繰り返し触れさせることによって区切りに関する気付きを促すこと。

研修9 音声指導について②

○事前に準備する物

- ・ 小学校学習指導要領解説 外国語編（文部科学省 平成29年7月）
- ・ 研修9「解説編」（P50、51）

○研修の留意点

- ・ 音声指導についての理解を深めるために、実際に発話しながら指導のポイントを確認していくこと。また、必要に応じてCDやICT機器を活用すること。

○研修例（45分）

時間	研修項目	研修内容	使用する物
15分	○音声指導について理解すること。	○ウォームアップを行う。 ○研修のねらいを伝える。 ○中学年と高学年の音声指導の違いや領域ごとの音声指導のポイント、音声指導及び評価・見取り方について説明する。	・ 本書P50、51
20分	○音声指導について、体験的に理解すること。 	○小学校学習指導要領解説 外国語編P24～27の音声指導の例を見ながら、英語で発話することを伝える。 【活動例】 ・ 指導のポイントを確認する。 ・ ALT又は、外国語担当教員が手本を示す。 ・ 全員で繰り返す。	・ 小学校学習指導要領解説 外国語編
5分	○音声指導及び評価・見取り方について理解すること。	○P51「音声指導及び評価・見取り方」を読み、音声指導の評価と改善について説明する。 	
5分	○研修を振り返ること。	○音声指導について分かったことを話す。	

○研修例（15分）

時間	研修項目	研修内容	使用する物
5分	○音声指導について理解すること。	○研修のねらいを伝える。 ○P50「中学年と高学年の音声指導の違い」、「領域ごとの音声指導のポイント」を読み、学年ごとや領域ごとの音声指導のポイントを説明する。 ○小学校学習指導要領解説 外国語編 P24～27の音声指導の例を見ながら、英語で発話することを伝える。	・本書P50、51 ・小学校学習指導要領解説 外国語編
10分	○音声指導について、体験的に理解すること。	【活動例】 ・指導のポイントを確認する。 ・ALT 又は、外国語担当教員が手本を示す。 ・全員で繰り返す。	

中学校段階での音声指導の主な内容

コラム

- 現代の標準的な発音
 - ・ 母音や子音の種類や数が英語と日本語では異なっていること。
 - ・ 英語では子音が続くこと。（例：school や street, books 等）
- 語と語の連結による音の変化
 - ・ 音声で慣れ親しんでいる表現や文について、文字を示しながら音の変化についての指導をすること。
- 語や句、文における基本的な強勢
 - ・ 中学校で扱う語や句、文について強勢を指導すること。
例：品詞によって強勢の位置が異なるもの〔recórd（動詞）récord（名詞）〕
一番強い強勢だけでなく二番目に強い強勢をもつ語〔néwspàper〕
- 文における基本的なイントネーション
 - ・ 書かれたものを読む際にも基本的なイントネーションを活用すること。
 - ・ or を含む選択疑問文→上昇調と下降調の組み合わせ
 - ・ 疑問の意味を表す平叙文→上昇調のイントネーション
 - ・ 疑問詞で始まる疑問文を聞き返す→上昇調のイントネーション
- 文における基本的な区切り
 - ・ 文を適切に区切りながら読ませること。